



## 終業式の式辞にかえて

校長 荻原 哲哉

昨日 18 日は分散出校日で久しぶりに校内に活気がありました。どの教室にも笑顔があふれ、一瞬だけとはいえ学校が本来の姿を取り戻した嬉しい一日でした。それにしても思いもしない形の年度末を迎えました。世界を震撼させるウイルスに、一度しかない高校生活の日々を奪われていく皆さんのくやしさを思います。

一月の校長講話「動詞の人たれ！」で皆さんには「気づく・挑む・深める」という動詞を大切にしてほしいと伝えました。今の社会は、従来の価値観や常識が通用しない極めて流動的で複雑な状況となっています。しかし、そうであるが故に「気づき」の機会に満ちているのではないかと思います。今までには見えなかったものが「露わ」になっています。医学・薬学をはじめ、社会学、政治、経済、哲学、倫理、国際関係などきわめて広範な分野の課題が、今皆さんの目の前にあります。そして、人間にとって何が大切なのか、優先されるべきなのかという問いが突き付けられています。この今を、無為に過ごすことなく、「気づく」ことや考えたことを整理しておくことを勧めます。それがやがて自らが生涯をかけて取り組む課題につながっていくかもしれません。

かつて NHK に『クローズアップ現代』という番組（現在の『クローズアップ現代+』の前身）がありました。キャスターは国谷裕子さん。1993 年から 23 年間余にわたってさまざまな社会問題に多角的な視点からメスを入れてきた、まさに「気づき」を呼び起こす硬派の報道番組でした。

この『クローズアップ現代』が突如という印象で幕切れを迎えたのは 2016 年 3 月 17 日でした。国谷さんたちが選んだ最終回のテーマは「未来への風」。その中で評論家の柳田邦男さんから「若者たちに向けた八か条」が示されました。この最後のメッセージは私の思いと強く重なるものでした。令和元年度終業式の式辞にかえてその八か条を皆さんに伝えます。

- 一 立ち止まって自分で考える習慣をつける。感情に流されず論理的に考える力をつける。
  - 二 政治問題、社会問題に関する情報の根底にある問題を読み解く力をつける。
  - 三 他者の心情や考えを理解するように努める。
  - 四 多様な考えがあることを知る。
  - 五 自分の考えを他者に正確に理解してもらうための表現力を身につける。
  - 六 いろいろな人と会うことが自分の内面を耕し、人生を豊かにすることを心得る。
  - 七 現場、現物、現人間（経験者、関係者）こそ思考力を活性化する最高の教科書であることを胸に刻み、自分の足でそれらにアクセスすることを心掛ける。
  - 八 失敗や壁にぶつかっても絶望することなく、自分の考えを大切に、地道に行動を続ける。
- 私から皆さんへのメッセージはこれが最後になります。皆さんが校歌に謳う「明日の歴史をつくる」気概と志をもち、自身の可能性に力いっぱい挑んでくれることを願っています。